

令和2年度 M I E 職員力アワード 部門賞・グッドパフォーマンス賞 受賞取組概要

【改善活動分野】

部局名	部門	活動テーマ	グループ名	取組概要（応募用紙より抜粋）
職員セレクト賞 農林水産部	協創推進部門	コロナに負けやん！官民連携の産地ロス削減に向けた取り組み！	伊勢農林水産事務所ワーキンググループ	<p>食品ロス・産地ロスが問題となる中、農林水産業の現場では、コロナ禍で更なる産地ロスの懸念があったことから、農林水の各分野横断で支援策を考えました。</p> <p>まず、現状把握のため、直売所・生産者に聞き取りを行ったところ、南伊勢町の養殖真鯛等が、コロナ禍での外食減少により行き場を失っていました。そこで、規格外品や賞味期限間近の商品の販売に取り組むタベループに協力依頼し、タベループと三井不動産のマンション住民向けの販売サイトやメルマガを活用し、真鯛300匹を販売するとともに、産地の現状を伝えることができました。また、インターネットでの販路を確立したことで、今後も継続的な販売が可能となりました。</p>
病院事業庁	協創推進部門	災害に備える取り組み「防災ピクニックに参加しよう！」	一志病院	<p>一志病院では、関係団体と協力して、津市白山・美杉地域の保健・医療・福祉の連携に取り組んでいます。そのような取り組みに加え、住民の皆さんに防災・減災にもっと興味を持ってもらうにはどうしたらよいか？そのような思いから始まったのが「防災ピクニック」です。</p> <p>日頃の備えとして、防災グッズを購入し非常用持ち出しリュックに保管している家庭が多いと思いますが、災害時に何が本当に必要なかは、使ってみて初めてわかるものです。「防災ピクニック」では、各自が非常用持ち出しリュックを持ち寄って、防災グッズの中身や非常食の賞味期限などを確認したり、ピクニック気分です非常食の試食会を行います。また、応急手当の実習やハザードマップと住宅地図を用意して、自宅、一次避難場所、家族の最終集合場所をチェックして、避難ルートを確認するとともに、ハザードマップを見ながら避難ルートが安全か確認し合います。</p>
環境生活部	スマート改革チャレンジ部門	データベースを利用した立入検査証の作成について	大気・水環境課	<p>大気・水環境課では、立入検査証の発行が必須な法令・条例を18所管しており、その発行作業（令和2年度検査証739枚発行）に約3ヶ月の時間を要しています。また、地球温暖化対策課、廃棄物・リサイクル課、環境生活総務課でも11の法令・条例の立入検査証作成作業を行っています。</p> <p>立入検査証の主な発行対象者は、地域防災総合事務所等環境室の職員であり、各法令等で定められた立入検査証の様式は異なれど、記載する内容は、同じ人物のものであるため、データベースを活用し、立入検査証作成システムを構築し、同じデータで29の立入検査証が作成できるようにしました。これにより、立入検査証は約1週間程度で作成でき、効率化を図ることができました。</p>

部局名	部門	活動テーマ	グループ名	取組概要（応募用紙より抜粋）
企業庁	ワーク・ライフ・マネジメント部門	予算業務の平準化や自動化による働き方改革！	財務管理課予算管理班	<p>予算業務は一定の期間に多くの事務が集中し、時間外勤務が常態化していました。そのため、年度当初から班内で予算業務の見直しを検討しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務時間を確保するため、レク日程の調整や事前準備など業務の平準化を行いました。</li> <li>・レク資料の簡素化や議案・予説等の作成用ファイルの改修によるデータ入力自動化を行い、業務量を軽減しました。</li> <li>・各人に勤務時間内に事務を完了する意識が定着しました。</li> </ul> <p>この結果、時間外勤務時間が8割以上減少しました。また、確認や修正に充てる時間が増え、ミス防止につながりました。</p>
グランプリ	環境生活部	サービス向上部門	三重県総合博物館（MieMu）	<p>ステイホームの期間中、自宅で過ごさなくてはならなくなった子どもたちに、少しでも博物館での体験を楽しんでもらえるよう、ネットで利用できる「MieMu@ほーむ」を特設ページとして開設しました。塗り絵や工作などのキットなど自宅で印刷して遊べるものや、学芸員による解説動画や基本展示室360°バーチャル映像・展示室音声解説コンテンツ等を提供し、家族で見て、自宅でも博物館を楽しめるように取り組みました。</p> <p>（動画：16本／塗り絵・工作関係：20コンテンツ） 応募時</p> <p>なお、「MieMu@ほーむ」は、北海道博物館がとりまとめている全国の博物館等が参加する「おうちミュージアム」にも参加しています。</p>
県土整備部	職員力向上部門	松阪どぼくゼミ（技術の伝承・技術力の向上にむけて）	松阪建設事務所 松阪どぼくゼミ	<p>質の高い社会資本整備を行うには、職員の知識や経験を高めることが必要不可欠です。若手職員が減少する中、様々な仕事を広く経験することにより現場経験を積んでいくキャリアパスが難しくなっており、技術の伝承・技術力の向上が大きな課題となっています。</p> <p>このため松阪どぼくゼミでは短期間で効率よく経験を積めるように参加者が知識や判断力を深める場を設定しています。各担当者が事務所内各課で実施している事業内容、懸案事項や現場で発生した課題とその解決方法などを発表し、参加者は自分だったらどう対応するかを考え意見交換をします。また、新たな事業に向けて参加者を集いWG形式で調査・設計も行っています。参加実践型の魅力的なコンテンツに取り組むことにより回数を重ねるほど参加人数が増え、盛り上がっています。</p>
総務部	自由テーマ部門	医療用ガウンの代替品作成ボランティア活動	イガケンゼイ メイクガウン・プロジェクト	<p>新型コロナウイルス感染拡大により、三重県内の医療機関において医療用ガウンが不足していることを伝え聞きました。そこで特定非営利活動法人みえ防災市民会議が募集していた医療支援ボランティアに参加し、代替品を作成し医療機関に提供することにしました。対象医療機関を増やす努力をするとともに、作成したガウン一着一着には応援や感謝のメッセージを添えることで医療従事者を励ましつつ医療崩壊を防ぎ新型コロナウイルスの早期収束を願ってボランティア活動を続けてきました。職員が庁外の主体と一緒にあって地域課題の解決に向けて取り組むことで多様な人材づくりにつながり、事務所内のチームワーク醸成の効果もあると考えられます。</p>

【グッドパフォーマンス分野】

部局名	推薦テーマ	グループ名	推薦理由（応募用紙より抜粋）
農林水産部	“素人×ゼロ予算”の挑戦！インスタによる「みえファン」づくり	農林水産部公式Instagram運営チーム	<p>農林水産総務課では、コロナ禍における三重県の豊かな自然や農林水産物等の魅力発信の新たな取組として、令和2年4月よりInstagramの運用を開始しています。</p> <p>運営チームの皆さんは、メンバー全員がインスタ初心者でありましたが、投稿に対する反応の分析や「映える」画像の編集方法など試行錯誤を繰り返しながら、「地道にコツコツ」をモットーに努力を続けてくれました。ほぼ毎日投稿し続け、積極的な情報発信を行った結果、なんと開設わずか1年足らずでフォロワーは1600人を超えました。県が運営するInstagramでこれほど積極的に投稿を行っているアカウントは他にはないのではないのでしょうか。投稿の頻度では当課のInstagramがナンバーワンだと思います。このようにこつこつと努力を重ね見事な結果を出してくれた、当課企画調整班の情報発信の取組を自信を持って推薦します。</p>